



2022年3月期 第2四半期決算説明会

2021年11月18日

代表取締役社長

實吉 政知

	ページ
1. テクノメディカの歴史・主要製品	… 2-4
2. 2022年3月期 第2四半期決算	… 5-20
3. 第2四半期トピックス	… 21-26
4. 2022年3月期 業績見通し	… 27-30
5. 長期ビジョンの検討	… 31-35



テクノメディカの歴史・主要製品

1987年	9月	神奈川県川崎市高津区にて創立
1988年	9月	全自動血液ガス分析装置の販売を開始
1991年	4月	自動採血管準備装置の販売を開始
	6月	かながわサイエンスパークに開発センターを設置
1997年	3月	本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）
1998年	6月	本社第2研究所竣工 ⇒ 研究開発部門の充実
2004年	12月	ジャスダック証券取引所へ店頭登録
2005年	9月	本社第3研究所竣工 ⇒ 研究開発部門 + 物流の充実
2007年	3月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
2008年	3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2009年	7月	本社第4ビル竣工 ⇒ 生産業務施設の充実
2012年	9月	ヘルスケアセンターを開設 ⇒ ヘルスケア部門の研究開発強化
2019年	7月	テクノメディカ台湾支店の開所
	8月	横浜港北に物流倉庫の開設
2020年	4月	新型コロナウイルス感染症への対応
	7月	中型自動採血管準備装置・システムの販売を開始
2021年	4月	研究開発体制の強化・組織改正 新製品開発の展示

● 品目別に見た主要製品

		製品名				
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p> <p>アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>		
	検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>ハンディ型血液ガス分析器 GASTAT-navi</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p><その他> 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー測定システム 等</p>	
消耗品等	 <p>各種採血管</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>センサーカード</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハロンカップ</p>	<p><その他> 採血管準備装置および 検体検査装置の保守 等</p>



2022年3月期 第2四半期決算

● 決算サマリー: 売上・販売復調 利益・販売増の効果

(単位: 百万円)

	2021/3期 2Q累計		2022/3期 2Q累計		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	3,701	100.0%	4,291	100.0%	+15.9%
営業利益	404	10.9%	669	15.5%	+65.5%
経常利益	412	11.1%	676	15.7%	+64.0%
四半期純利益	281	7.6%	468	10.9%	+66.3%
1株当たり純利益(円)	33.2	—	54.9	—	+65.4%
1株当たり純資産(円)	1,653	—	1,760	—	+6.5%

● 品目別売上高（全体）

：採血管準備装置・システム大幅増収/検体検査装置は減

（単位：百万円）

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2021/3期	2022/3期	
				2Q累計	2Q累計	前期比
採血管準備装置 ・ シ ス テ ム	3,803	4,233	3,303	982	1,482	+50.9%
構成比	40.8%	43.2%	36.5%	26.5%	34.5%	—
検体検査装置	620	570	740	392	257	△34.5%
構成比	6.6%	5.8%	8.2%	10.6%	5.9%	—
消 耗 品 等	4,908	5,006	4,996	2,326	2,551	+9.7%
構成比	52.6%	51.0%	55.3%	62.9%	59.4%	—
合 計	9,332	9,810	9,040	3,701	4,291	+15.9%

● 決算（前年同期比）のポイント・トピックス

売上高 増加要因

採血管準備装置・システム

⇒ 国内は前期の大幅減が回復、海外は新型コロナの停滞回復増収
＜ 国内57%増、海外20%増 ＞

検体検査装置

⇒ 前期 国内外共に新型コロナ検査需要増あり。今期反動減
＜ 国内29%減、海外41%減 ＞

消耗品等

⇒ 国内は平時の検査数の増加、海外で検体検査装置用の消耗品が急伸
＜ 国内8%増、海外24%増 ＞

販管費 影響要因

コロナ禍における諸経費削減、営業活動の自粛継続による増加抑制

トピックス

新製品開発状況を展示会出展

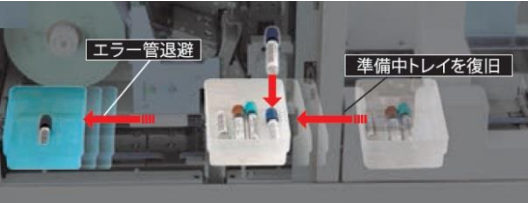
● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

自動採血管準備装置
BC・ROBO
8001
RFID

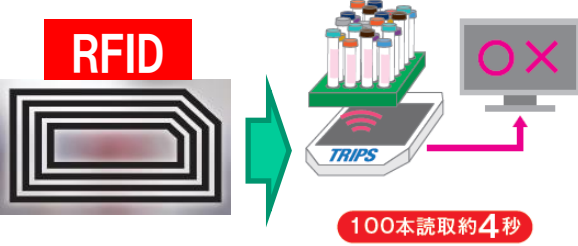
4
つ
の
新
機
能



IoTサポート
⇒ 自動起動機能 等



自動復旧
⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化
⇒ 検体トレーサビリティの強化



自動学習
⇒ メンテナンス時期のアラート 等



大型案件・採血業務支援システム Assist More

採血受付

採血の診察券、受付票の読取データに応じて採血整理券を自動発行

患者呼出
採血情報表示
患者照合
採血カルテ登録

採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血管準備

BC・ROBO

バーコードラベルを貼り付けた採血管、採血指示書、手貼ラベル、コメントラベルをトレイにまとめて自動発行

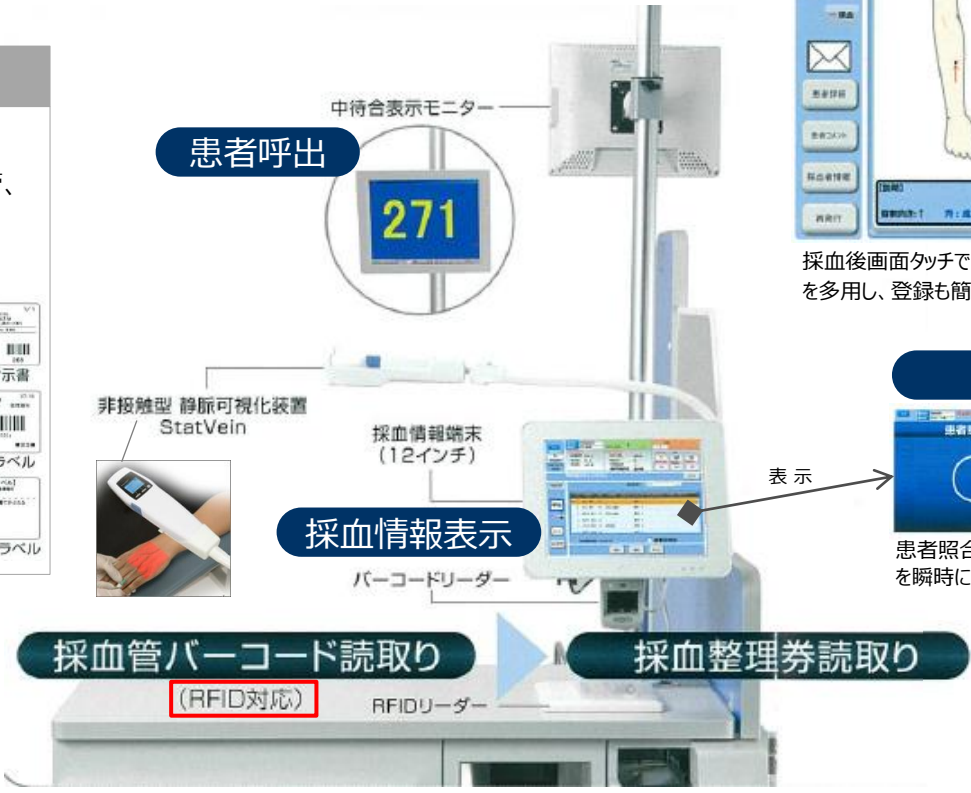
オールインワン

採血管

採血指示書

手貼ラベル

コメントラベル



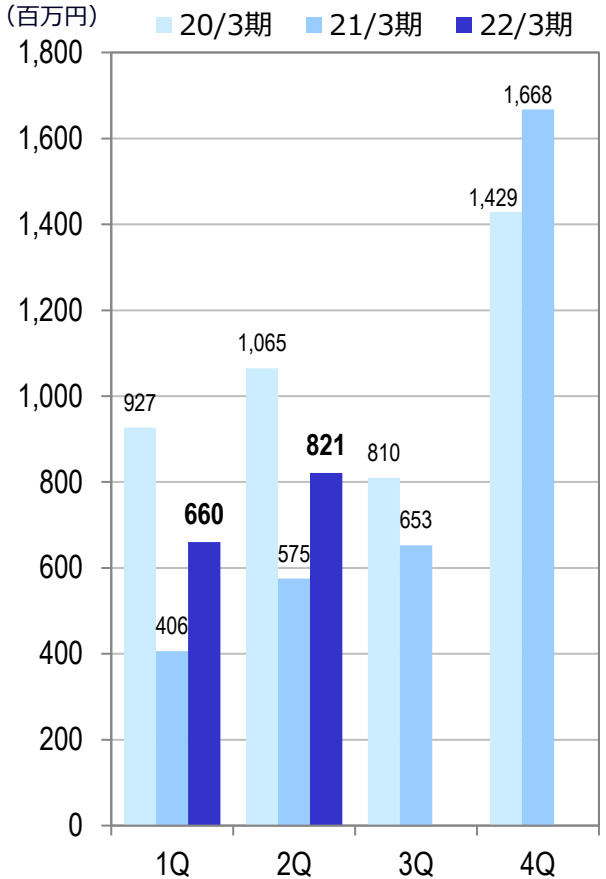
患者照合



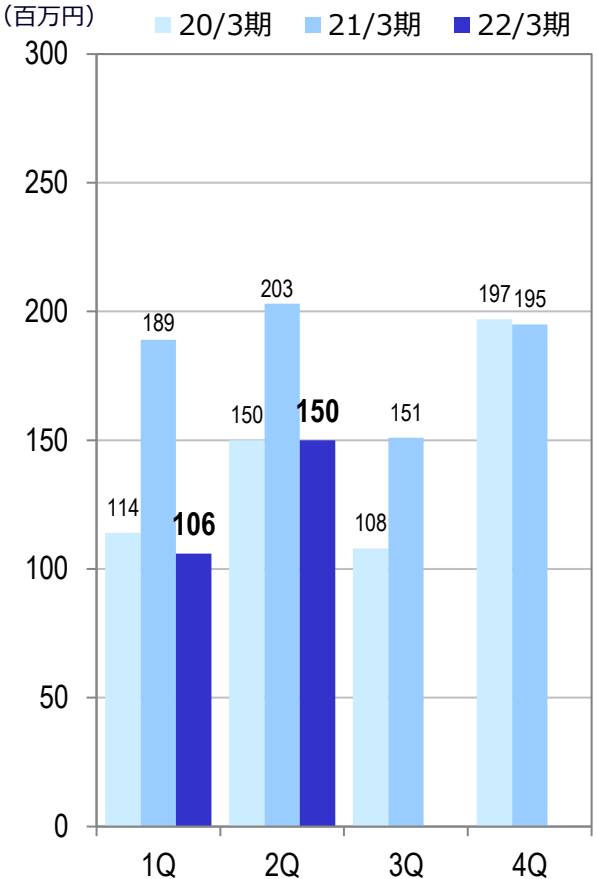
患者照合の上、RFIDで採血管バーコード情報を瞬時に照合 ⇒ 安全性・効率性アップ

品目別売上高（四半期別）：採血管準備装置・システムが増収

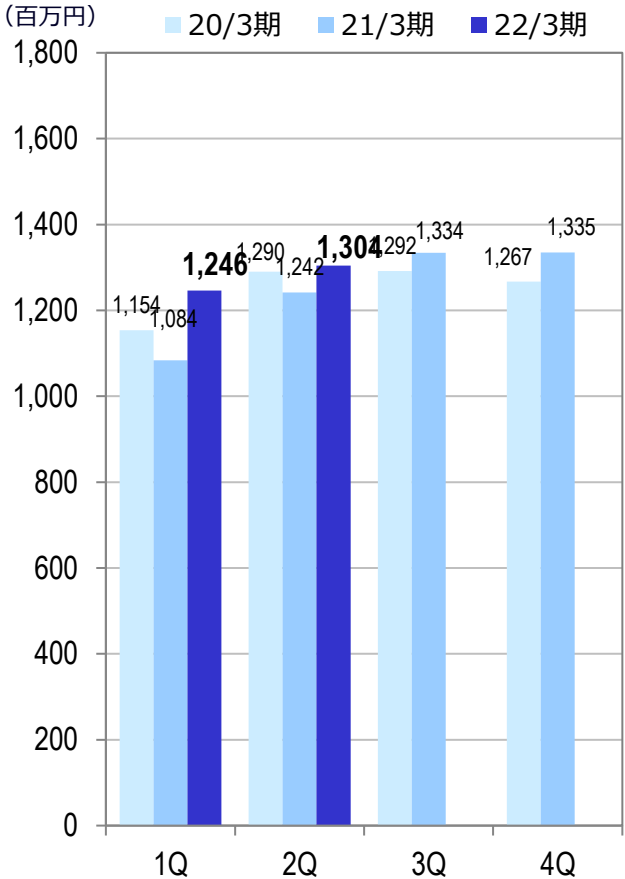
採血管準備装置・システム



検体検査装置



消耗品等

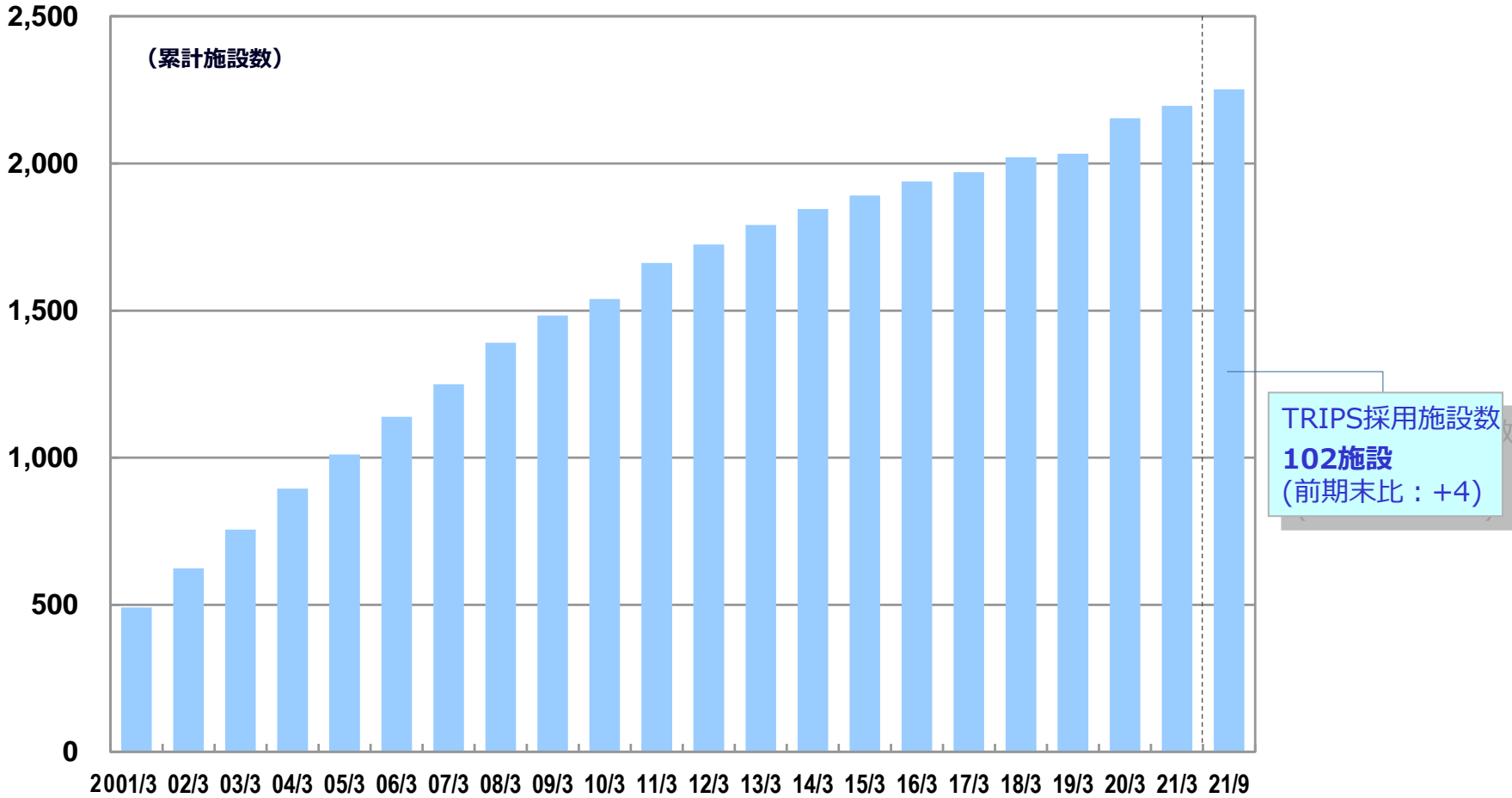


● 採血管準備装置・システム – BC・ROBO納入施設数

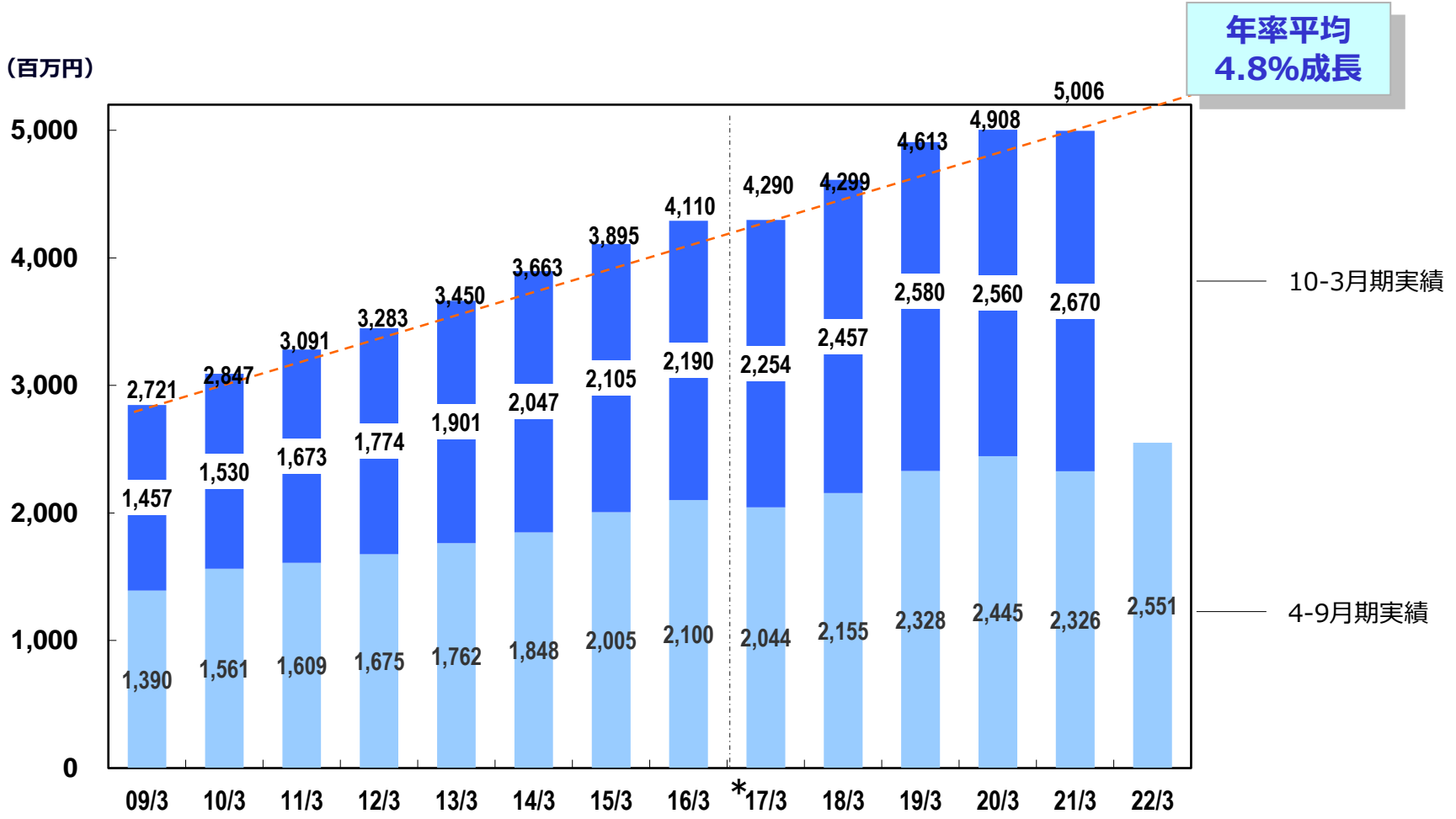
	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2021/3期	2022/3期	
				2Q累計	2Q累計	前期差
納入施設数	313	429	364	148	222	+74
国内	163	271	224	71	129	+58
うち新規	34	121	73	27	56	+29
うち更新	129	150	151	44	73	+29
輸出	150	158	140	77	93	+16

- ・国内：新規は小型機を中心に56施設に導入
大型機中心に更新需要を取込み
- ・輸出：小型機を中心に海外需要を掘り起こし

● 採血管準備装置・システム – 国内納入施設の推移



● 消耗品等（含む保守料）の売上高推移



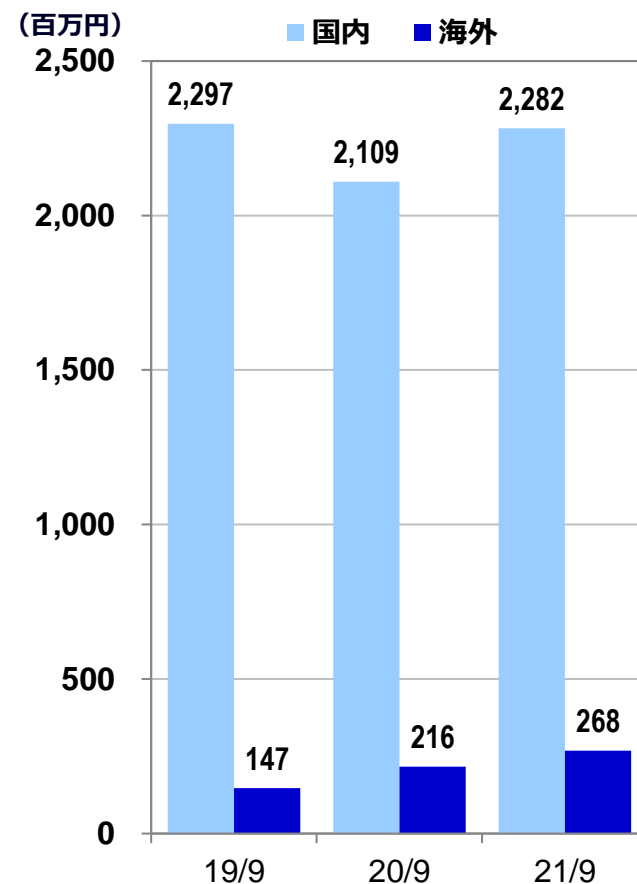
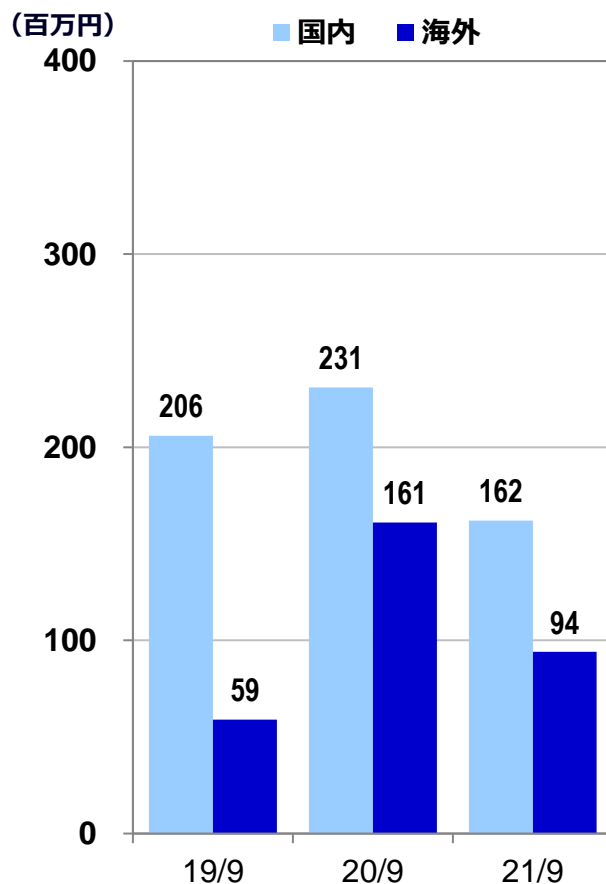
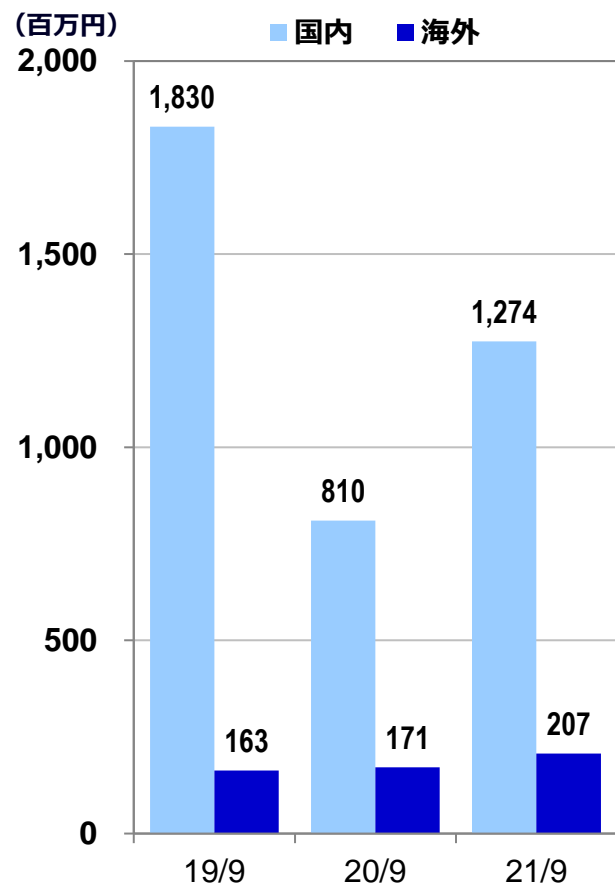
* 17/3期より保守料の計上方法を変更

● 品目別売上高（国内・海外別）：国内大幅増、海外堅調

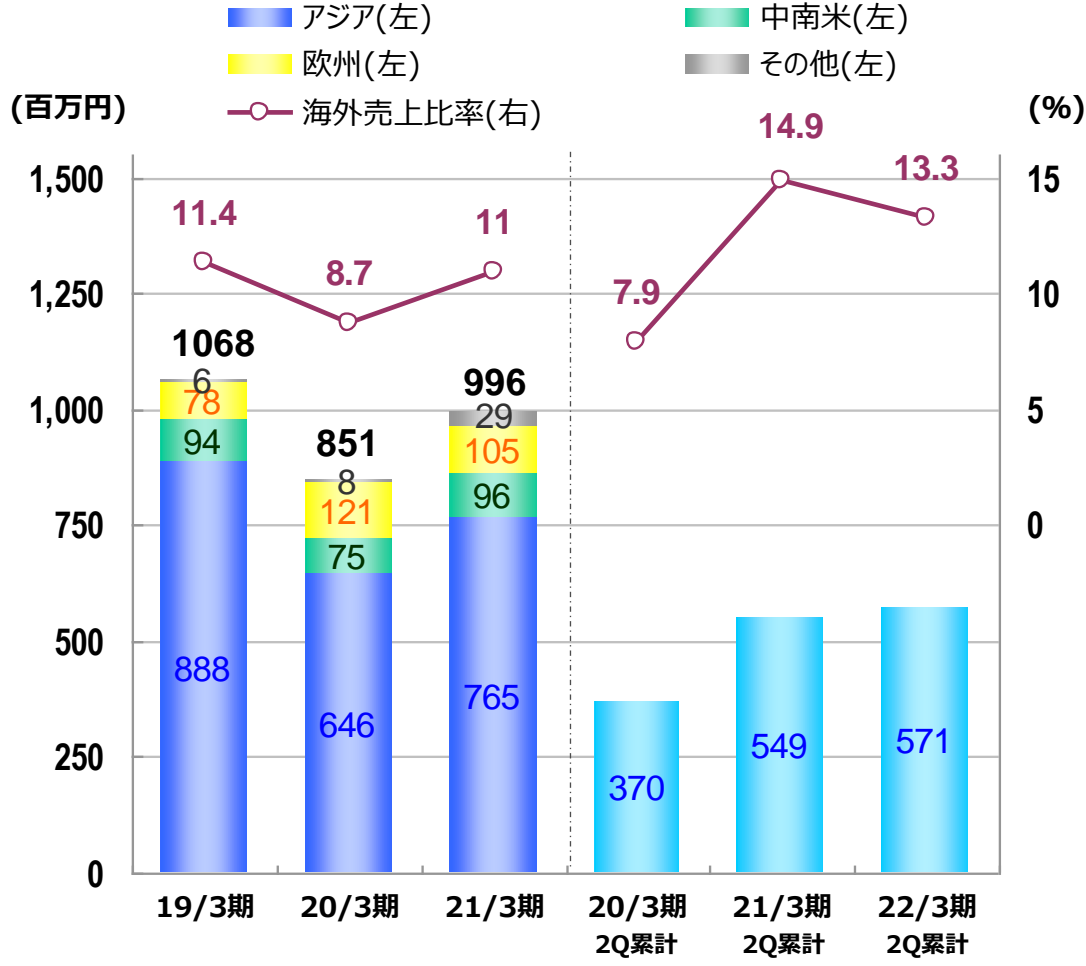
採血管準備装置・システム

検体検査装置

消耗品等



● 海外売上高



[2022/3期 2Q累計]

- 採血管準備装置・システム
 - … 新型コロナの影響で停滞していた市場の一部復調
- 検体検査装置
 - … 前期新型コロナの需要増の反動
- 消耗品等
 - … 検体検査装置用消耗品販売が大幅増

● 要約損益計算書

(単位：百万円)

	2021/3期 2Q累計		2022/3期 2Q累計		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	3,701	100.0%	4,291	100.0%	+15.9%
売上原価	1,932	52.2%	2,177	49.3%	+12.7%
売上総利益	1,769	47.8%	2,113	49.2%	+19.5%
販売管理費	1,364	36.9%	1,443	33.6%	+5.7%
営業利益	404	10.9%	669	15.5%	+65.5%
営業外損益	7	—	6	—	—
経常利益	412	11.1%	676	15.7%	+64.0%
特別損益	—	—	—	—	—
法人税、調整額等	130	—	207	—	—
四半期純利益	281	7.6%	468	10.9%	+66.3%

売上高増に対し販売管理費の増加が想定を下回った

● 要約貸借対照表【資産の部】

(単位：百万円)

	2021/3期末		2022/3期 2Q末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動資産	15,470	88.1%	14,924	87.9%	△546
現預金	10,138		11,069		+931
売上債権	3,605		2,509		△1,096
棚卸資産	1,646		1,258		△388
その他流動資産	79		87		+8
固定資産	2,083	11.9%	2,058	12.1%	△25
有形固定資産	1,564		1,532		△32
無形固定資産	23		32		+9
投資等	495		493		△2
資産合計	17,554	100.0%	16,982	100.0%	△572

● 要約貸借対照表【負債・純資産の部】

(単位：百万円)

	2021/3期末		2022/3期 2Q末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動負債	2,384	13.6%	1,759	10.3%	△625
買入債務	1,134		656		△478
短期有利子負債	—		—		—
その他流動負債	1,249		1,103		△146
固定負債	209	1.2%	221	1.3%	+12
長期借入金	—		—		—
その他固定負債	209		221		+12
負債合計	2,594	14.8%	1,981	11.7%	△613
純資産合計	14,960	85.2%	15,001	88.3%	+41
負債・純資産合計	17,554	100.0%	16,982	100.0%	△572

● 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2021/3期 2Q累計	2022/3期 2Q累計	
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	758	1,421	+663
投資活動によるキャッシュ・フロー	△72	2,511	+2,583
財務活動によるキャッシュ・フロー	△414	△433	△18
現金・現金同等物の増加額	270	3,499	+3,228
現金・現金同等物の期首残高	7,313	7,570	+256
現金・現金同等物の期末残高	7,584	11,069	+3,484
研究開発費	183	187	+4
設備投資実施額	10	53	+43
減価償却実施額	58	58	-

フリーキャッシュフローはプラスで安定的に推移、基盤整備、研究開発投資に活用を検討



第2四半期トピックス

新製品出展 臨床検査機器・試薬・システム展示会 (2021年10月8日～10日)

① 採血受付システム (ICカード対応)

New AI-5

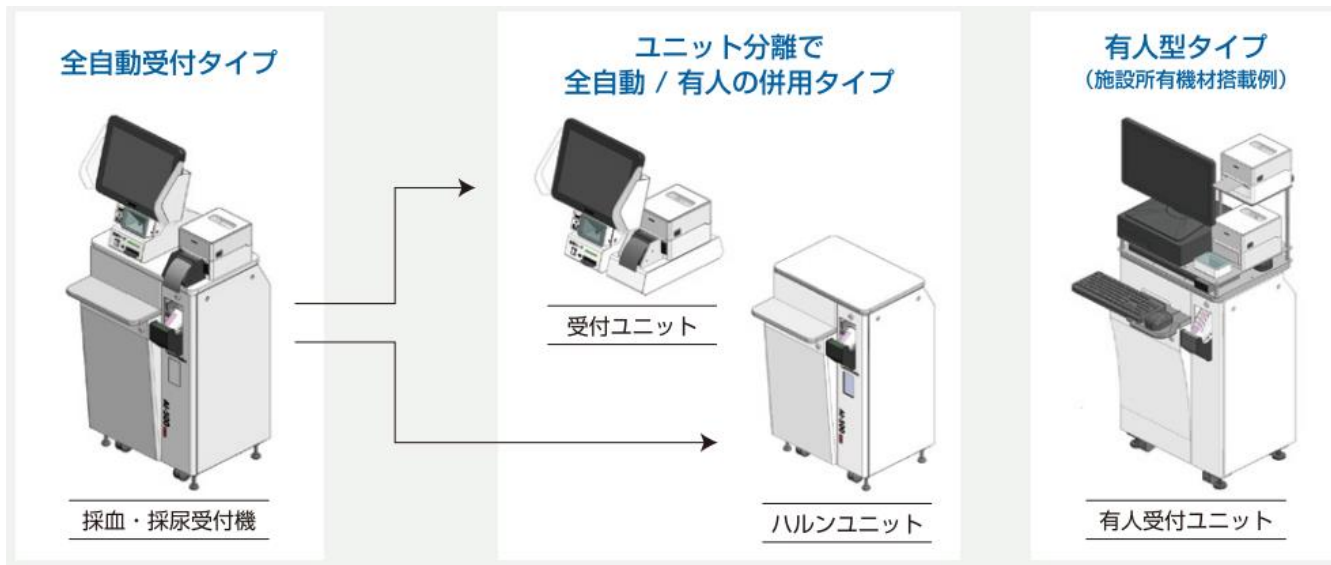
- 採血室への入室情報をスマート管理
- 採血業務のスムーズ化・混雑回避
- 医療施設に特化したデザイン設計



②採血採尿受付システム（ICカード対応）

New AI-500 RFID

- 高機能、拡張性に優れた新型装置
- ICカード対応 先進性を備えた受付機
- 院内業務に応じて選べるユニット展開



③ オンライン採血有人受付システム

(商品化準備中)

- 離れた場所から非対面受付 感染予防
- 常時受付職員の待機不要 業務効率化
- 設置が容易 デジタル活用 充実受付対応



④ロボット ハンドリング システム (商品化準備中)

- 尿検体の受け渡しをロボット化
- 医療現場の環境を、工業技術で支援
- 市場ニーズに応じた、開発展開の準備



東証 プライム市場への対応

- ① 21年7月 東証よりプライム市場適合の通知受領
- ② 21年9月 プライム市場選択への申請
- ③ 21年12月 改定コーポレートガバナンス・コード対応
- ④ 22年1月 東証より企業の選択結果を公表
- ⑤ 22年4月4日 プライム市場へ移行予定

引続きプライム市場維持のための対応を図ってまいります



2022年3月期 業績見通し

● 2022年3月期 業績見通し

(単位：百万円)

	2021/3期		2022/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,040	100.0%	9,500	100.0%	+5.1%
営業利益	1,607	17.7%	1,300	13.6%	△19.1%
経常利益	1,629	18.0%	1,300	13.6%	△20.2%
当期純利益	1,153	12.7%	1,000	10.5%	△13.3%
1株当たり純利益(円)	135.7	—	117.7	—	—
1株当たり配当金(円)	51.0	—	51.0	—	—
研究開発費	433	4.8%	700	7.4%	+61.7%

通期目標 売上高95億円、営業利益13億円（2021年5月12日決算短信値）を目指す

● 2022年3月期 品目別売上高見通し

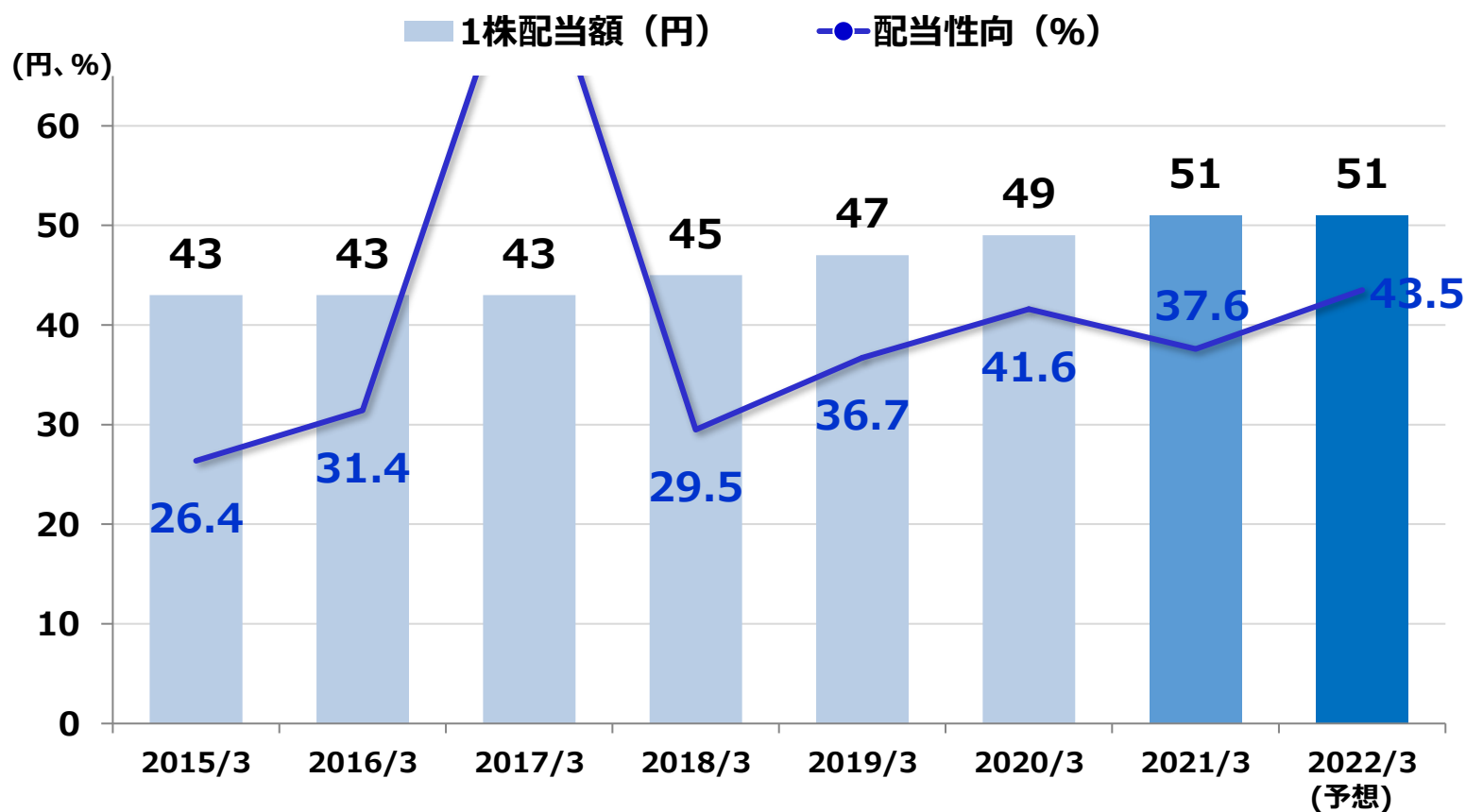
(単位：百万円)

	2021/3期		2022/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,040	100.0%	9,500	100.0%	+460
採血管準備装置 ・ システム	3,303	36.5%	4,000	42.1%	+5.6%
検体検査装置	740	8.2%	550	5.8%	△2.4%
消耗品等	4,996	55.3%	4,950	52.1%	△3.2%

【配当性向の目標】

30%～40%を当面の目安として目指す

(2021年11月4日 自社株買い決定)





2030長期ビジョンの検討

当社は1987年に創業、採血管準備装置・システムを他社に先駆けて開発し、病院待ち時間の大幅な短縮を図り、病院及び患者様へ効率的で、快適なサービスとともに、患者様照合のための医療安全サービスを提供し貢献してまいりました。

2022年には創業35年を迎えます。当社の更なる安定的な成長のために、変えないもの、変わらなければならないものについての議論を行い、当社の「経営理念」を実現するために、今後何に取り組み、如何に社会に貢献していくべきか、当社の10年後のありたい姿としての2030長期ビジョンについて検討しています。

当社が考える10年後の社会像に対し、当社として健康、医療分野でどのように貢献できるのか、チャレンジしていきたいと考えています。

(10年後の社会像)

SDGs(国連の持続可能な開発目標)をはじめとした、社会課題解決への取組の要請が高まっています。当社は社会の基盤と革新を担う存在であり、社会課題の解決に向けて大きな責任を持っています。持続可能な社会の実現には、ソリューション提供を通し、当社が成長しながら継続的に社会価値を創造していくことが不可欠となっています。当社はESG(環境・社会・企業統治)の視点で機会とリスクを的確に捉え、経営に反映させて参ります。

<p>③保健</p> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p> 	<p>⑦エネルギー</p> <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p> 	<p>⑧成長・雇用</p> <p>8 働きがいも経済成長も</p> 
<p>⑨イノベーション</p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p> 	<p>⑪都市</p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p> 	<p>⑬気候変動</p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p> 

(取組内容)

- ・ 使用する原材料の削減
- ・ ロボットシステム普及に貢献する技術や製品の開発、ソリューションの提供
- ・ 消耗品事業のプラスチックから紙製品等(エコマテリアル)への転換
- ・ 感染予防対策に資する製品の開発、提供
- ・ 自社ビル内節電策、太陽光発電の活用
- ・ 産業廃棄物のミニマム化
- ・ 安定調達、供給のための構造改革
- ・ 「現場力」に基づいた最適生産体制の確立
- ・ 働きやすい職場環境づくり

当社は革新的な新製品や技術開発を通して、このような社会課題の解決に向けて果たすべき役割は大きいと考えています。この変化に迅速に対応し、持続可能な成長・発展を目指します。

(社会に貢献するための3つの基本戦略)

10年後の社会に貢献するためのキーワードは、イノベーション、海外展開、既存事業強化です。

(1)イノベーションの追及

- ・顧客目線でのイノベーションの強化
- ・研究開発、システムソリューションによる提案力の強化

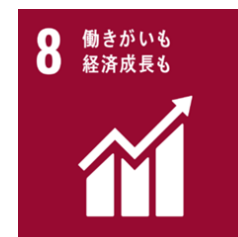
(2) 海外展開の拡大

- ・グローバルな拡大を目指し、自社での地域拡大及び海外代理店の活用による販路の強化

(3) 既存事業強化

- ・AI、IoT等の先端技術活用による次世代機の開発
- ・消耗品拡大への生産効率化
- ・サプライチェーンを含めたコスト合理化

事業活動を通し社会に貢献できる会社を目指し、3つの事業領域と経営基盤を強化し健康、医療分野での安心な社会の実現へ向けた取り組みを進めて参ります。



<注意事項>

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。